93年12月版④

Wetmaster

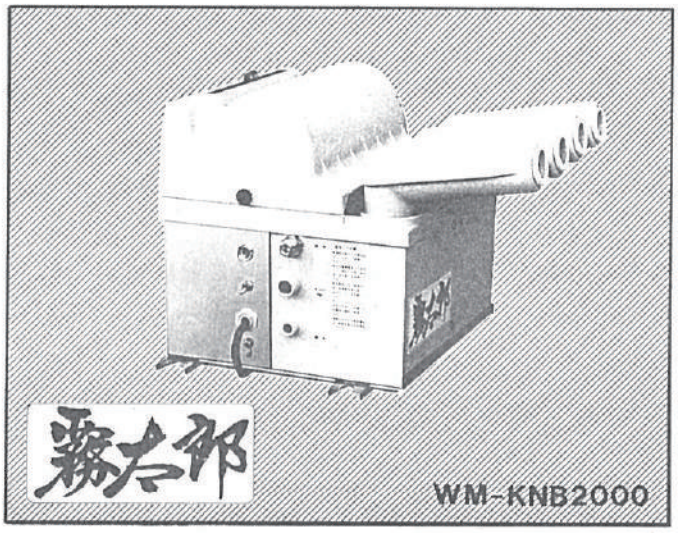
施工要領書
取扱説明書

きのこ栽培専用、超音波式加湿器

WM-KNBタイプ

WM－KNB2000
加湿量 2 kg 毎時

●従来型をモデルチェンジ、耐久性をさらに向上いたしました
●ファンケースは、従来型KNAタイプにもご使用いただけます



●このたびは、ウエットマスター超音波式加湿器「霧太郎」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みになり、正しい取付、運転、取扱、保守を行ってください。なお、お読みになった後は大切に保管してください。
●本書は、必ずご使用になるお客様にお渡しください。

目　次

1、概　　要 …… P.1
2、用　　途 …… P.1
3、構　　成 …… P.1
4、動　　作 …… P.1
5、仕　　様 …… P.1
6、取　　付 …… P.2～3
7、運　　転 …… P.3～4
8、保守点検および故障時の作業 …… P.5～13
9、本体外形図と主要部品品目 …… P.14
10、保証期間 …… P.14

ウエットマスター株式会社

1．概要

「霧太郎」は、昭和６２年の発売以来、需要家皆様のご支持のもとに幅広くご愛用いただいております。さらに、今回発売のＫＮＢタイプは、送風用ファンを中心に耐久性を大幅に向上、霧質の調整機能、ワンタッチ着脱のエアフィルタなども加え、性能面・機能面ともに大きく生まれ変わりました。また、加湿器本体上部のファンケースは、従来型ＫＮＡタイプにも取付けられるよう互換性をもたせました。

2．用途

高湿度雰囲気中においても安定した運転を行えるよう設計されており、きのこ栽培用途以外にも、施設園芸全般、農畜産物貯蔵施設などにもご使用いただけます。

3．構成

加湿器本体および給水のための軟銅管・ストレーナなどにより構成されています。本体内には、超音波を発生させるための超音波加湿ユニット、水位を一定に保つ給水制御機構などが取付けられています。日常の保守点検では、特に加湿器水槽内の掃除が重要で、超音波加湿ユニット（振動子・加湿ユニット基板）の寿命に大きく影響します。

4．動作

本体水槽内の水に1.7メガヘルツ(毎秒170万回)の超音波を照射することにより、水の超微粒子を発生させるもので、発生した霧は内蔵のファンの気流によって吹出パイプより噴霧され、室内に拡散、蒸発、加湿を行います。

5．仕様

商品名		きのこ栽培専用　超音波式加湿器　「霧太郎」
型番		ＷＭ－ＫＮＢ２０００
加湿量		２．０(kg/h)
加湿ユニット数		４
電源		ＡＣ１００Ｖ　５０／６０Ｈｚ
定格消費電力		１９５／１９０ Ｗ(50/60Hz)
運転時質量(重量)		８ kg
保護装置		低水位による無負荷運転防止、フロートスイッチ保護回路
使用条件	周囲温湿度	３５℃以下（凍結なきこと），９５％ＲＨ以下
	給水水質	市水、上水またはこれと同等のもの
	給水圧力、温度	０．０２～０．５ＭＰａ（０．２～５．０ kg/cm²）、５～３０℃
梱包内容		①加湿器本体(電源コード２ｍ付)……１台 ②吹出パイプ……４本 ③給水軟銅管(φ６．３５×１ｍ、リングジョイント式)……１本 ④給水ストレーナ(Ｔ型、給水継手兼用、１／２Ｂおねじ)……１ケ ⑤風量調整グロメット……４ケ ⑥施工要領書／取扱説明書……１冊
その他		1)供給水の水質によっては、水中に溶解しているカルシウムやマグネシウムなどが霧と共に空気中に出て、水分蒸発後に白い粉となることがあります。 これを防止する必要がある場合には、給水側に純水装置など適当な水処理装置を設けて下さい。 2)超音波加湿ユニットの振動子は、運転時間により霧化能力が徐々に低下してきます。運転時間約５，０００時間で交換して下さい。

6．取付

6－1．加湿器本体の取付

●加湿器本体の取付にあたっては、(図－1)のように天井面に吊りボルトまたは壁面にブラケットなどを用意してください。このとき本体と天井面との間隔は0.5m以上、壁面との間隔は0.1m以上とれるよう配慮してください。

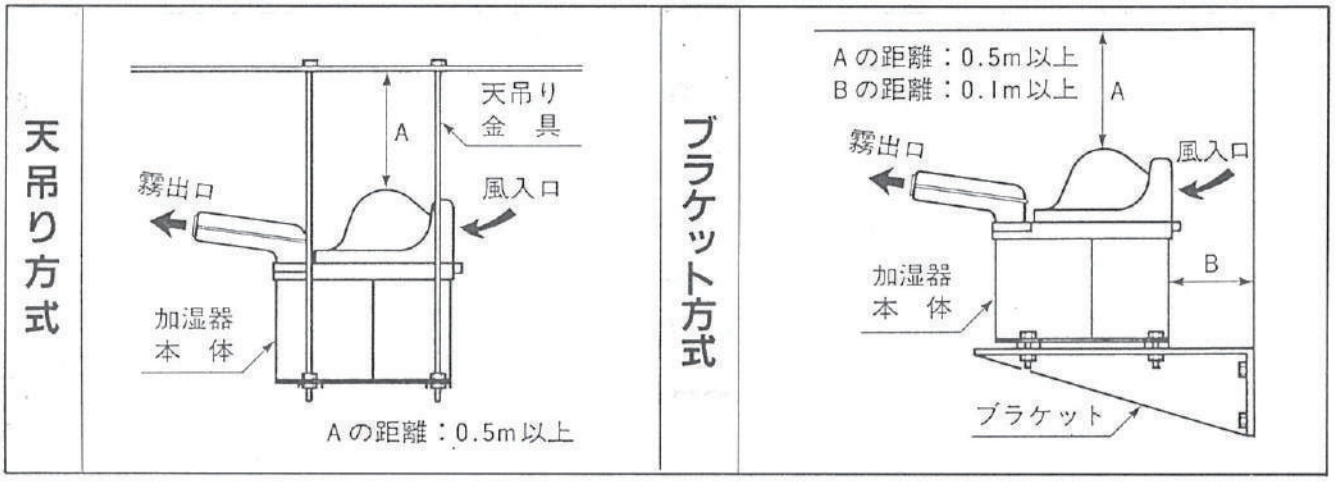
●取付場所の選定にあたっては、ユニットクーラーの位置や室内の気流に注意し、吹出パイプからの霧が室内全体に均一に拡散するように配慮してください。

●本体は必ず水平となるように注意し、ビスにより固定してください。

●加湿器本体上部の開孔部に吹出パイプを差し込んで下さい。差込んだパイプを回して、吹出方向を決めてください。

●吹出パイプの正面至近距離(4m以内)に障害物があると霧が凝縮して水滴となり、滴下することがありますのでご注意ください。

(図－1) 取付参考図



6－2．給水およびオーバフロー配管

●給水の水質は、衛生および雑菌対策上、市水、上水またはこれと同等のものをご使用ください。

●加湿器への給水配管を用意してください。
加湿器への給水は、公共の水道管から直接接続することはできません。このような場合はシスターン（型式認可のもの）をご用意ください。また、給水配管には、本体にできるだけ近い位置に、専用の給水サービス弁を設けてください。

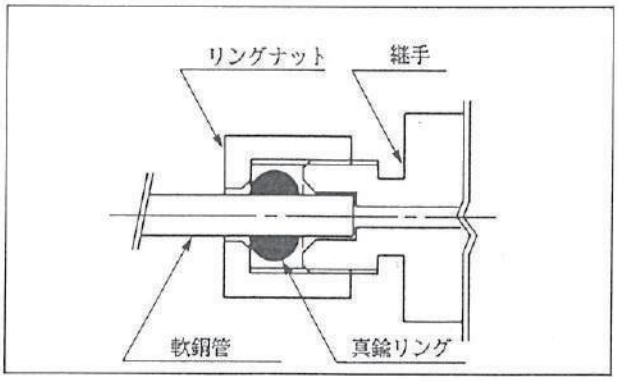
●給水サービス弁を取付け後、加湿器への配管接続前に通水してフラッシングをしてください。配管中の切粉や油分などを加湿器内に混入させないために必要な作業です。

●付属の給水ストレーナ(T型、1/2Bおねじ)を給水配管に取付け、さらに加湿器本体との間を付属の軟銅管(φ6.35×1m)で接続します。
(図－2)のようにリングジョイント式となっておりますので、接続の際は必ずモンキーレンチ2本を使用し、本体側の継手を固定して締込んでください。
締付トルク：10N・m(100kgf・cm)程度

●オーバフロー配管は、本体のオーバフロー管にホースなどを接続し、ドレンパン、排水口など適当な場所に放流できるようにしてください。
このときホースには、たるみや水平部分がなく必ず先下り勾配とし、大気開放となるよう注意してください。

●加湿器本体および給水配管が凍結するおそれのある場合は、保温材を取付けるなどの処置をしてください。

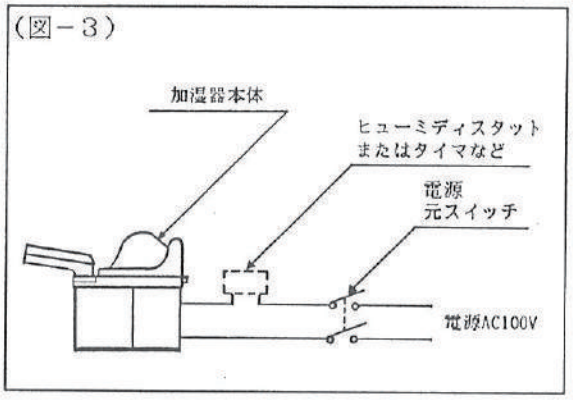
(図－2) リングジョイント接続図



6－3．電気配線

●加湿器本体への供給電源電圧はＡＣ１００Ｖです。
●加湿器へは（図－３）のように、ヒューミディスタットまたはタイマなどを介して配線してください。このとき、ヒューミディスタットなどの接点容量は、１台につき100V･2A以上としてください。（特に複数台制御の場合にご注意ください）
●保守点検時の安全のため、必ず加湿器専用の電源元スイッチをご用意ください。

（図－３）



7．運転

7－1．試運転のまえに

●試運転の前に以下の項目を確認してください。

①本体が水平で取付方向が正しいこと。
②供給電源電圧がＡＣ１００Ｖであること。
③電気配線が正しく接続されていること。
④給水、オーバフロー配管が確実に接続されていること。
⑤その他､各部品が正しく取付けられていること。

7－2．試運転

●給水サービス弁を開けて通水してください。
●ヒューミディスタットまたはタイマの目盛をセットしてください。
●加湿器への電源元スイッチを入れてください。
●加湿器本体の電源スイッチを入れてください。
ヒューミディスタットまたはタイマの接点がＯＮであれば本体に電源が入り、まず給水が始まり、正常水位になれば霧化が始まります。
本体に電源が入らない場合は、ヒューミディスタットなどの目盛を調節してください。
●運転開始後､以下の各項目を確認してください。
①すべてのパイプから噴霧されていること。
②しばらく運転を続けた後、本体各部、オーバフロー管、その他配管から漏水や流水のないこと。
③ヒューミディスタットなどの接点のON･OFFと運転が連動していること。
④吹出パイプの噴霧方向が正しいこと。
⑤室内の霧の拡散が良好であること。本体周囲の構造物に直接霧があたっていないこと。

●試運転により霧の拡散、霧質の調整が必要な場合は、４頁の「７－４噴霧状態の調整」を参考にして風量調整グロメットを取付けてください。
●風量調整グロメットを取付けた場合は再度試運転を行い、霧の拡散、霧質を確認してください。
●５頁を参照して給水サービス弁を閉めて給水ストレーナを掃除してください。
●本体の排水キャップを外し、水槽内の水を排水してください。排水後は排水キャップを元のとおりしっかりと取付けておいてください。

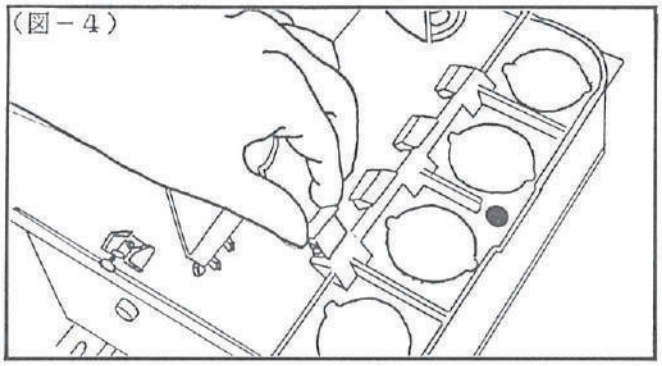
7－3．運転に関する注意事項

●水槽内水位は、フロートスイッチおよび電磁弁により一定に保たれます。
●正常な運転状態では、オーバフロー管からの流水はありません。
●加湿器本体が横倒しまたは逆さの状態にあるときは絶対に電源を入れないでください。
●運転中は、吹出パイプおよび本体上部カバーを取外さないでください。
●吹出パイプの霧出口は塞がないでください。霧が逆流し、故障の原因となります。

7－4．噴霧状態の調整

●室内の使用条件などにより、霧の拡散、霧質の調整が必要な場合は、ファンベースの水槽内風入口（7頁、図－14参照）に風量調整グロメットを取付けてください。これにより水槽内に導入する風量を調節し、使用条件に応じた噴霧状態にすることができます。

（図－4）



風量調整グロメットの取付例

グロメット2ケの場合

グロメット3ケの場合

グロメット4ケの場合

●加湿器の電源スイッチを切り、吹出パイプを取外します。（6頁参照）
●ファンケースは、ファンベースとファンカバーで構成されています。上部のファンカバー両側面のビス2本をゆるめ、取外してください。
●ファンベースには、水槽内への風入口となる7ケ所の開口が設けてあります。これに風量調整グロメットを取付けてください。

注　意

●グロメットの差込み部分の平らな方を吹出方向に向けて取付けます。
●グロメットは左図のように、7ケ所の開口に対し均等に取付けてください。片寄った取付けをいたしますと風の導入も片寄り噴霧状態が悪くなります。
●グロメットの取付けは、加湿器本体を取付けたままの状態でも行えますが、足場の確保など安全にご注意ください。

7－5．長期休止時の注意事項

●1週間以上の長期にわたって運転を休止する場合は、以下の作業を実施してください。

①水槽内の水を排水する。
②水槽内およびフィルタの清掃を行う（後述の保守点検参照）。
③給水ストレーナの掃除を行う。
④本体の電源スイッチ、電源元スイッチをOFFにする。

8．保守点検および故障時の作業

8－1．作業上のお願い

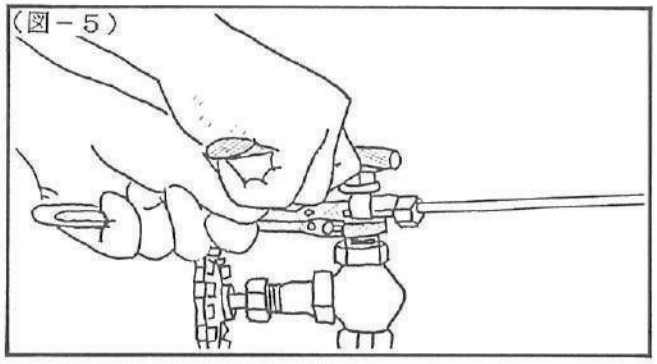
●保守点検作業は、必ず電源を切り、給水サービス弁を閉めて行ってください。
●振動子は非常にデリケートな部品です。特に水槽内掃除の際にはドライバなどで表面を傷つけないように十分注意してください。
●振動子のリード線を抜いたままで超音波加湿ユニットに通電しないでください。
●工具類は適正な寸法のものをご使用ください。
締過ぎ、締不足は故障の原因となります。
●加湿器は、多くの場合高い位置に設置されます。作業の際にはしっかりとした足場と、十分な照明を確保するなど安全に十分ご配慮ください。
●絶縁抵抗・絶縁耐圧の測定は、本体内の超音波加湿ユニットおよびリレー基板に電子部品が取付けられているので避けてください。
●部品交換の場合は必ず純正部品をご使用ください。

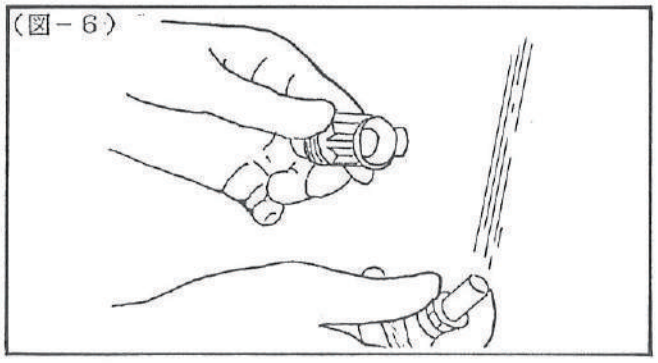
8－2．作業内容と必要工具

項目		掲載頁	内容および周期	必要工具
保守点検	給水ストレーナ掃除	5頁	運転開始後1～2日目、その後は水槽内の掃除の都度	モンキーレンチ2本(125㎜程度)
	フィルタ掃除	6頁	汚れ具合いに応じて	――
	電装部点検・吹出パイプ・水槽内・ファンケース掃除	6頁	1カ月に1回程度	プラスドライバ1本 柔らかい布
部品交換作業	ヒューズ交換	10頁	ヒューズ溶断時（原因調査）	プラスドライバ1本
	振動子交換	10頁	運転時間約5000時間ごと	プラスドライバ1本 モンキーレンチ2本(125㎜程度) ニッパ
	加湿ユニット基板交換	10頁	破損または故障時	
	ヒートシンク交換	11頁	破損時	
	フロートスイッチ交換	12頁	破損または故障時	
	給水用電磁弁交換	13頁	破損または故障時	
	リレー基板交換	13頁	破損または故障時	

8－3．通常の保守点検

【1】給水ストレーナ掃除


（図－5）


（図－6）

①5頁表を参照して必要な工具を用意します。
②加湿器への電源を切り、給水サービス弁を閉めます。
③給水配管に取付けられている給水ストレーナのキャップをゆるめて取外します。　（図－5）

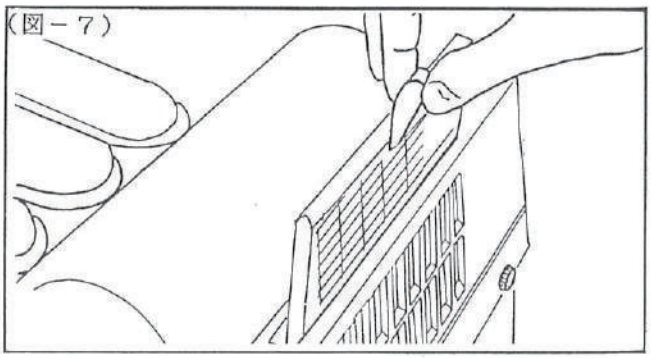
注意：●必ずレンチ2本を使用してください。
このとき、水が出てくることがありますので注意してください。

④筒状の網をきれいな水で洗います。　（図－6）

注意：●小さな部品なので、排水溝などに落とさないように注意してください。

⑤網の内側にゴミや異物などが詰まっていないか確認してください。
⑥キャップのOリングが切れていないことを確認し、元通りキャップを締め込んでください。
⑦給水サービス弁を開け、漏水のないことを確認してください。

【２】フィルタ掃除（または交換）

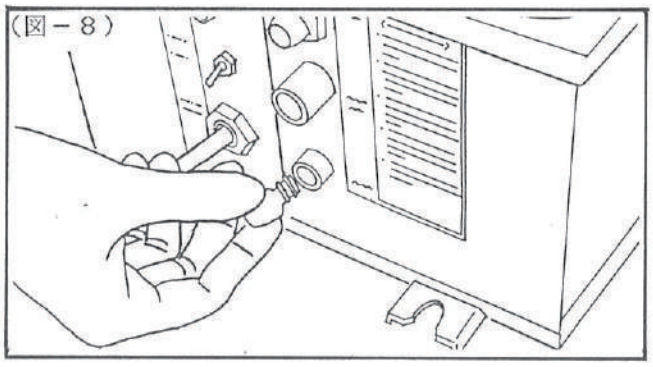

（図－７）

①本体上部のフィルタをファンケースから引き抜き、きれいな水ですすぎ洗いします。　（図－７）
②軽く水をきって日陰に置き、よく乾かしてください。
③乾いたら元のようにファンケースにセットしてください。

注意：●フィルターをファンケースに差込む際、フィルターの取っ手が手前側になるように差込んでください。差込む向きを間違えますとファンケースとフィルターの間に隙間が生じ、フィルターの効果が減少します。

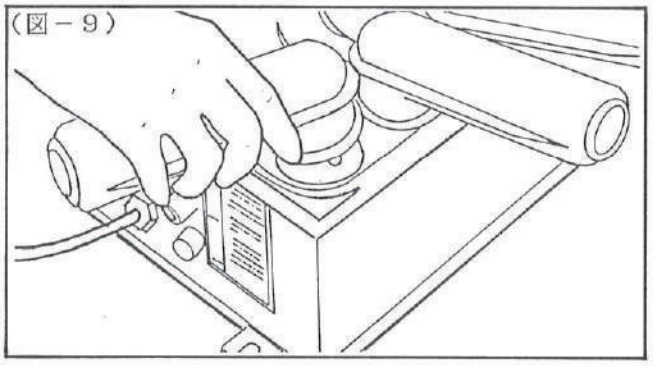
④フィルタの目詰まりがひどく、水洗いしてもきれいにならない場合などは、新しいものと交換してください。

【３】電装部点検、水槽内・吹出パイプ・ファンケース掃除


（図－８）

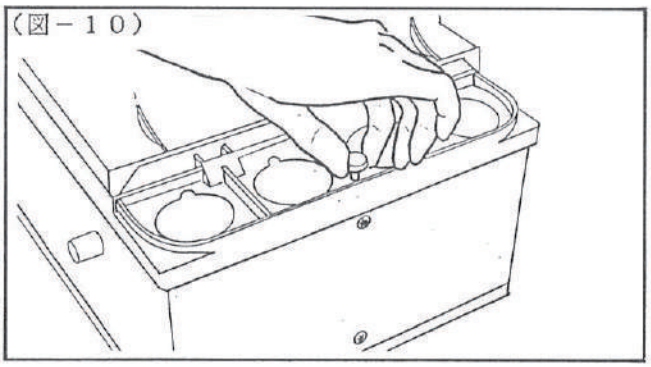
＊電装部点検および水槽内掃除は、本体を取付けたままでも可能ですが作業の安全などの面から、水槽部分を取外して行うことをおすすめします。
（９頁、部品交換の前作業参照）

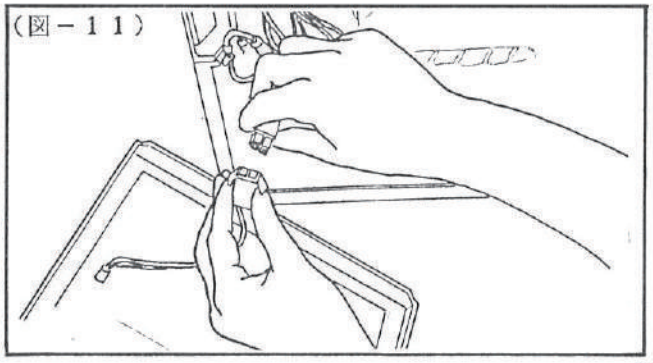
①５頁表を参照して必要な工具を用意します。
②加湿器への電源を切り、給水サービス弁を閉めます。
③水槽の排水口のキャップを取外し水槽内の水を排水します。（図－８：図は排水口の位置を見やすくするため、給水軟銅管を取外した状態にしています。）


（図－９）

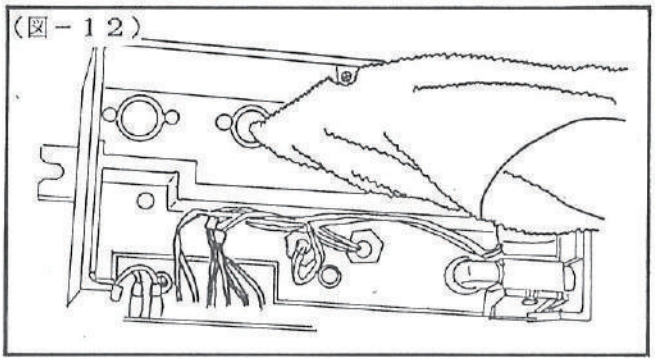
注意：●水はバケツなど適当な容器で受けてください。

④吹出パイプを取外します。まず外側のパイプを軽く上に引き上げながら外に回してください。パイプの凸部と取付孔の凹部が合ったところで引き抜くことが出来ます。　（図－９）
＊天吊方式では、天吊金具との位置関係上、吹出パイプが取外せない場合があります。このような場合には以下⑤⑥の要領でファンケースを取外してから吹出パイプを取外してください。また、復旧の際には吹出パイプの取付が先になります。
⑤ファンケースについているローレットビス（頭の黒いビス）３ケをゆるめて取外します。ビスは前面中央に１ケ、背面両サイドに各１ケずつついており、手でゆるめることが出来るようになっています。　（図－１０）
⑥ファンケースをゆっくりと持ち上げファンケースと本体間配線（ファンリード線）を接続しているコネクタ（白色）を外してファンケースを取外します。　（図－１１）

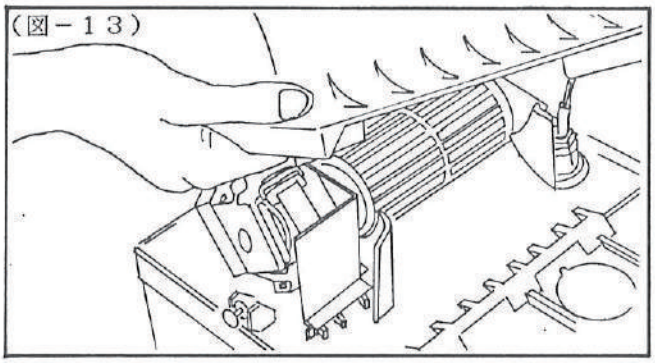

（図－１０）


（図－１１）

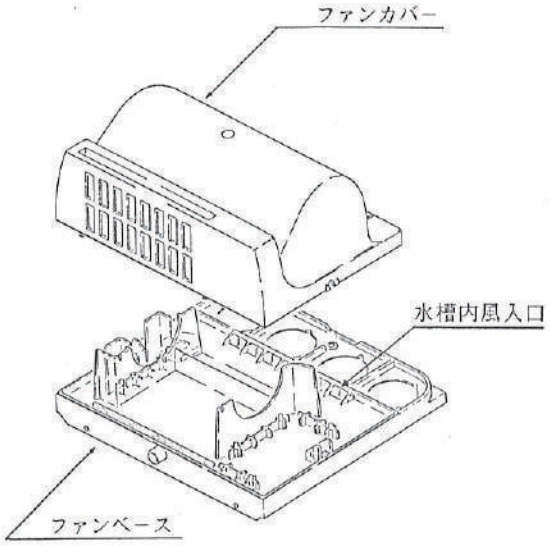
（図－１２）



（図－１３）



（図－１４）ファンケースの構成



＊風量調整グロメットは、水槽内風入口に取付けます。

⑦水槽内を柔らかい布などで拭取り掃除します。
（図－１２）

注意：●振動子およびヒートシンクには、絶対に傷をつけないように注意してください。また電装部には、絶対に水をかけないでください。

⑧取外したファンケース両側面のビス２本を外し、ファンカバーを外し掃除します。特にファンカバー内側や羽根車の塵埃を取除いてください。
（図－１３）

⑨電装部を点検し、以下の諸点を確認します。
＊電磁弁継手からの漏水がないこと。
＊リレー基板、リレーに変色、変形、劣化などがないこと。
＊電線類に損傷がないこと。
＊その他、各部品に異常がないこと。

⑩以上の確認を行い、異常がなければ上記の逆の手順でファンケースを取付ます。ビス止めの際には、ファンケースを上から軽く押さえつけるようにすると取付けやすくなります。

注意：●ファンリード線のコネクタの接続を忘れない様にしてください。
●ファンケースと本体間にリード線をはさまないように注意してください。

＊何らかの異常があった場合、後記「８－４故障の原因と対策」「８－５部品交換作業」を参照して、必要ならば部品の交換をしてください。

⑪先に取外した吹出パイプをきれいな水で洗ってください。

注意：●特にパイプの霧吹出口周辺には付着物がないようにしてください。
●霧吹出口のゴムリング部に傷がつかないように注意してください。

⑫取外した時の逆の順序でパイプを取付けます。

⑬取付ましたら、元の通り霧の拡散が最も良好となる角度にパイプの向きを調整しておいてください。

8－4．故障の原因と対策

●万が一故障が発生した場合には、下表を参照して必要な処置をとってください。

①まず本体周りからチェックします。給水ストレーナ、フィルタのチェックについては５頁「給水ストレーナ掃除」「フィルタ掃除」を参照してください。

故障内容	確認内容	原因	処置
霧が出ない 霧の出が少ない	加湿器本体の電源スイッチをチェックする	スイッチが入っていない	スイッチを入れる
	加湿器の電源元スイッチをチェックする	スイッチが入っていない	スイッチを入れる
	ヒューミディスタットまたはタイマをチェックする	設定が合っていない	設定を合わせる
	給水サービス弁をチェックする	弁が閉まっている	弁を開ける
	給水ストレーナを開けてチェックする	給水ストレーナの目詰まり	給水ストレーナを掃除する
	電源電圧をチェックする	正しい電圧でない	ＡＣ１００Ｖに調整する
	排水キャップをチェックする	キャップが外れている	キャップを取付ける
	本体が水平であるかチェックする	本体が水平でない	水平に直す
	フィルタの風入口をﾁｪｯｸする	風入口が塞がっている	異物を取除く
	フィルタをチェックする	フィルタの目詰まり	フィルタを掃除または交換
	給水圧力をチェックする	給水圧が低すぎる	給水圧力を調整する
	オーバフロー管からの流水の有無をチェックする	電源を切って流水が止まれば給水制御系故障	④参照
		電源を切っても流水が止まらなければ電磁弁不良	電磁弁交換
	ファンカバーを外しファンの動作をチェック	ファンが作動しない	③参照

②以上のチェックで原因がつかめない場合は、振動子の寿命が考えられます。加湿器の運転時間が5000時間近く、またはこれを超えているようであれば、１０頁「振動子交換」を参照して振動子を交換してください。

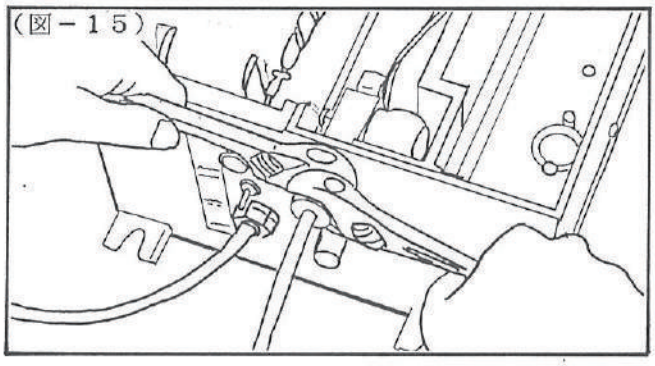
③②までのチェックでも原因がつかめない場合は、６頁「電装部点検、水槽内・吹出パイプ・ファンケース掃除」を参照してファンケースと吹出パイプをはずし、内部をチェックします。

霧が出ない 霧の出が少ない	ファンリード線のコネクタをチェックする	コネクタが外れている	コネクタを差し込む
		コネクタの１次側(本体側)にＡＣ１００Ｖが来ていても動作しない場合はファンの不良	サービスコール
	リレー基板端子の各接続をチェック	接続が外れている	正しく接続する
		接続が間違っている	
	ヒューズをチェックする	ヒューズが溶断している	原因を究明、処置（サービスコール）
	水槽底部の振動子表面をチェック	ゴミ・異物が堆積	水槽内を掃除する
		水槽内に油分が混入	

④以上のチェックによっても原因がつかめない場合は、９頁「部品交換の前作業」を参照して水槽部を取外し、リレー基板、超音波加湿ユニット、フロートスイッチなどをチェックします。

霧が出ない 霧の出が少ない	水槽を水平に置き、水の無い状態で給水用フロートスイッチＦＳ１のリレー基板への端子を抜取り導通を確認	導通が無ければ給水用フロートスイッチ不良	フロート部を掃除し、正常に動作しないようであれば交換する
	水槽を水平に置いて水を補給し水位がオーバフロー管まである状態で低水位用フロートスイッチＦＳ２のリレー基板への端子を抜取り導通を確認	導通が無ければ低水位用フロートスイッチ不良	フロート部を掃除し、正常に動作しないようであれば交換する

●以上のチェックで原因が判らない場合は、取扱店または弊社宛お問い合わせ(ｻｰﾋﾞｽｺｰﾙ)ください。


(図－１５)

＊部品交換が必要な場合（フィルタ交換、ヒューズ交換作業を除く）には、まず、下記のA～Hの手順で水槽部分（樹脂製）を本体から取外して作業のしやすい場所に運んでください。

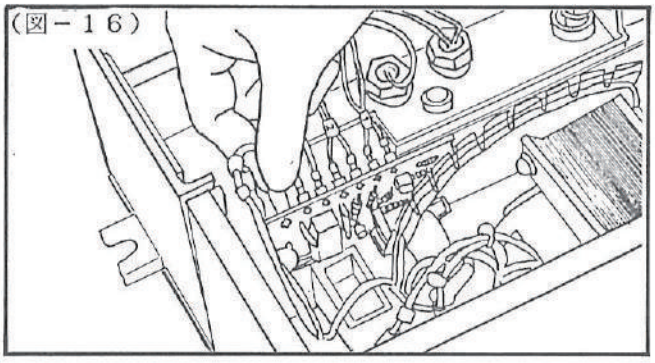
＊部品を交換して復旧する前には、必ず下記のI～Mの諸点を確認し、「８－３通常の保守点検」を参照して点検掃除を行ってください。

◎部品交換の前作業

A)５頁表を参照して必要な工具を用意します。

B)加湿器への電源を切り、給水サービス弁を閉めます。

C)給水軟銅管継手部分のナットをゆるめて取外します。（図－１５）


(図－１６)

注意：●ナットをゆるめるときには、必ず２本のレンチを使用してください。レンチ１本でゆるめますと、電磁弁の固定樹脂板が破損します。

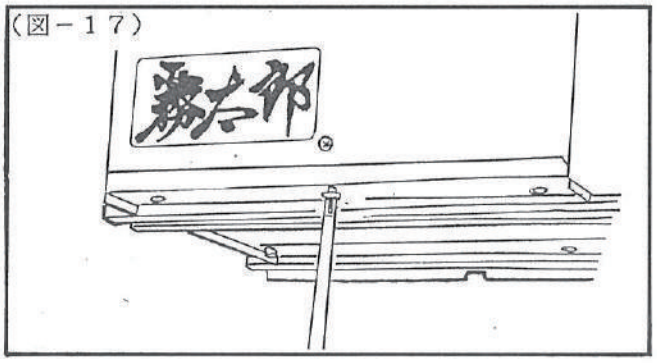
D)「８－３通常の保守点検」の【３】-④～⑥と同様の手順でファンケースを取外します。

E)水槽の排水口のキャップを取外し水槽内の水を排水します。（図－８）

F)リレー基板のＨ・Ｇ端子の差込み（黒線・赤線）を抜き取ります。（図－１６）

G)水槽前面中央下の水槽取付ビス１本をゆるめて取り外します。（図－１７）

H)水槽部分（樹脂製）を取外し作業のしやすい場所に運びます。


(図－１７)

◎組立復旧前の確認事項

I)すべての振動子および加湿ユニット基板のビスが確実に締付けてあること。

J)すべてのリード線が正しく接続されていること。（下表参照）

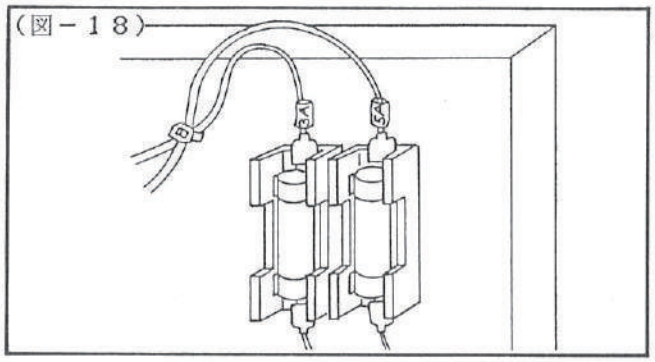
K)各部に漏水がないこと。

L)加湿ユニット基板、リレー基板、リレーなどに変色、変形、劣化などがないこと

M)電線類に損傷がないこと。

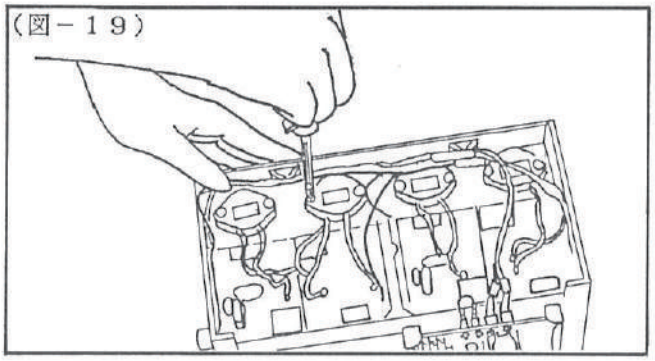
接続位置	端子マーク	線マーク	線の種類	線色・本数
ファンケースと本体の間	（コネクタにて接続）		ファンリード線	黒白・各１
加湿ユニット基板	ＯＲＧ		振動子リード線	オレンジ１
	ＹＥＬ		振動子リード線	黄１
	ＡＣ４８Ｖ		ユニット渡り線	黒白・各１
リレー基板(上側)	Ｈ	Ｈ	電源リード線	黒１
	Ｇ	Ｇ	電源リード線	赤１
	ＳＶ		電磁弁リード線	黄２
	ＦＳ２	２	低水位用フロートスイッチリード線	黒２
	ＦＳ１	１	給水用フロートスイッチリード線	黒２
リレー基板(下側)	Ｈ１	Ｈ１	ユニット渡り線	黒１
	Ｇ１	Ｇ１	ユニット渡り線	白１
	ＴＰ		サーモプロテクタ	黒２

【1】ヒューズ交換

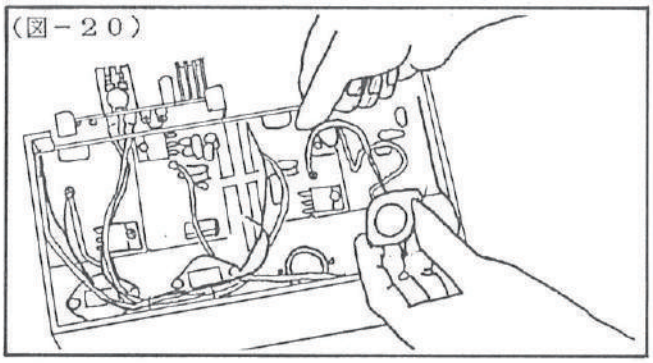


①「8－3通常の保守点検」の【3】－④～⑥と同様の手順でファンケースを取り外します。
②ヒューズ溶断の原因を究明し処置した後、ヒューズを取替えます。　(図－18)
③「8－3通常の保守点検」を参照して点検掃除を行い組立て復旧します。

【2】振動子交換



①9頁A～Hの手順で水槽を作業のしやすい場所に運びます。
②振動子の取付ビス2本をゆるめて取外します。　(図－19)
③振動子リード線の加湿ユニット基板への差込みを抜き取り、振動子を取外します。　(図－20)



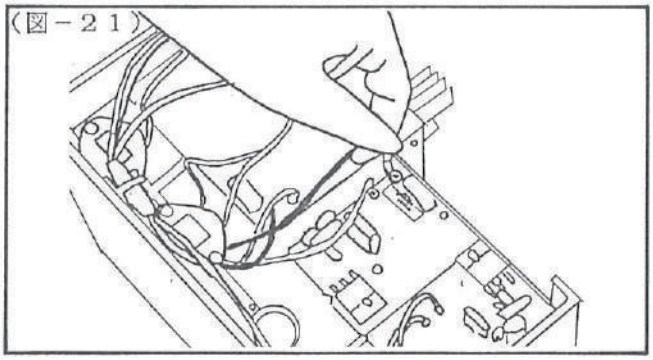
注意：●振動子リード線の差込みを抜き取るには、端子部分を手に持ち、リード線を引っ張らないでください。

④新しい振動子を水槽に取付てビス2本で締め付け、リード線を加湿ユニット基板の端子に差込みます。

注意：●振動子を取付けるときは、振動子のゴムパッキンが水槽の溝にきっちり入るようにしてください。
●振動子のビスは、片締めにならないように注意し、締めすぎないでください。
●加湿ユニット基板に記されたとおりの色のリード線を差し込んでください。
・オレンジ色の線→ORG
・黄　色　の　線→YEL

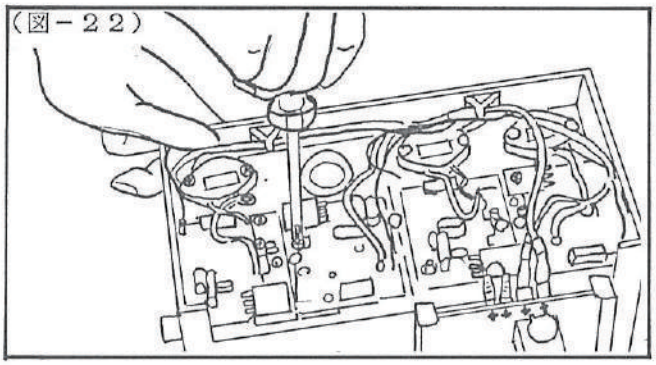
⑤9頁I～Mの各項目を確認し、点検掃除の後、A～Hの逆の手順で組立て復旧します。

【3】加湿ユニット基板交換



①9頁A～Hの手順で水槽を作業のしやすい場所に運びます。
②加湿ユニット基板上の振動子のリード線（オレンジと黄色）と加湿ユニット渡り線（黒と白）の差込みを抜き取ります。　(図－21)

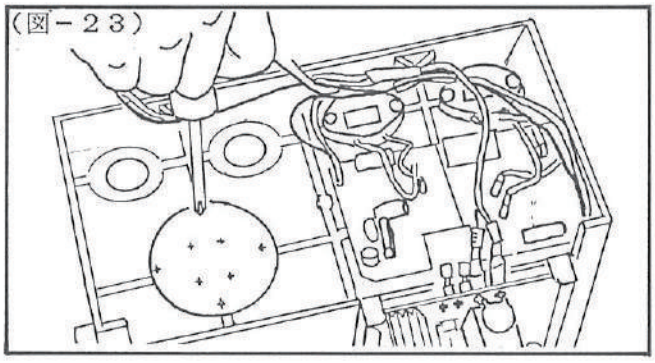
注意：●振動子リード線、加湿ユニット渡り線の差込みを抜き取るときは、端子部分を手に持ち、リード線を引っ張らないでください。



③加湿ユニット基板を取付けているビス２本をゆるめて取外し、基板を取外します。　（図－２２）
④新しい基板を２本のビスで取付け、振動子のリード線と加湿ユニット渡り線を端子に差込みます。
⑤９頁I～Mの各項目を確認し、点検掃除の後、A～Hの逆の手順で組立て復旧します。

注意：●基板上の端子への差込みを間違わないように注意してください。　（９頁表参照）
●新しい加湿ユニット基板には、ヒートシンクとの接触面に熱伝導の良いシリコンシートがついています。
●加湿ユニット基板を交換する場合は、同時に振動子も交換することをおすすめします。

【４】ヒートシンク交換



①９頁A～Hの手順で水槽を作業しやすい場所に運びます。
②交換するヒートシンクについている加湿ユニット基板２枚を、取付ビス各２本をゆるめて取外します。　（図－２３）
③ヒートシンクを水槽に取付ているビス４本をゆるめて取外し、ヒートシンクを取外します。
④新しいヒートシンクとＯリングを取付けます。

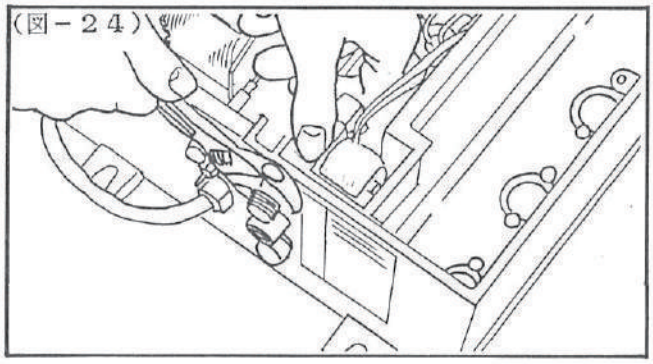
注意：●ヒートシンクを取付る前に、水槽のＯリング溝をきれいに掃除してください。
●ヒートシンクの取付方向を間違わないように注意してください。

⑤取外した基板２枚を、取付ビス各２本で取付ます。

注意：●基板に塗布されているシリコングリスは拭き取らないでください。放熱効果が低下します。

⑥９頁I～Mの各項目を確認し、点検掃除の後、A～Hの逆の手順で組立て復旧します。

【5】フロートスイッチ交換

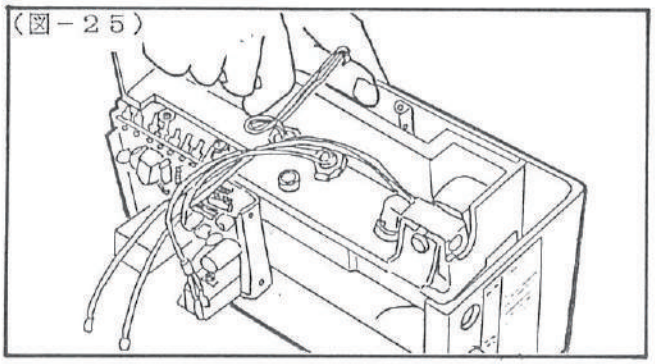

(図－２４)

①９頁A～Hの手順で水槽を作業のしやすい場所に運びます。

②電磁弁を手で押え、継手を静かにゆるめて取外します。　(図－２４)

注意：●電磁弁を手で押えずに行うと、固定樹脂板が破損します。

③リレー基板、電磁弁、フロートスイッチが取付られているフロートパネルを水槽より抜取ります。(図－２５)

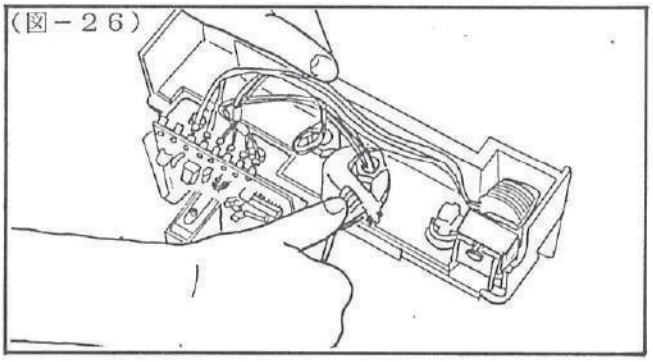

(図－２５)

④電線類の結線バンドをニッパで切ります。

注意：●電線類に傷をつけないように注意してください。

⑤交換するフロートスイッチのリレー基板へのリード線２本を抜き取ります。

注意：●リード線には「１」と「２」のナンバリングがついています。
給水用ﾌﾛｰﾄｽｲｯﾁ→黒線２本　No「１」
低水位用ﾌﾛｰﾄｽｲｯﾁ→黒線２本　No「２」


(図－２６)

⑥給水用か低水位用かをよく確かめ、交換するフロートスイッチのロックナットをゆるめて取外し、新しいフロートスイッチのすり割り部分をフロートパネル内側の回り止めの突起に合わせロックナットで締め付けます。　(図－２６)

注意：●すり割り部分と回り止め突起を必ず合わせて取付けてください。
●フロートスイッチは樹脂製ですので、ロックナットはあまり強く締め付けないようにしてください。
●フロートスイッチを扱う際には、フロート（浮子）を外さないようにしてください。

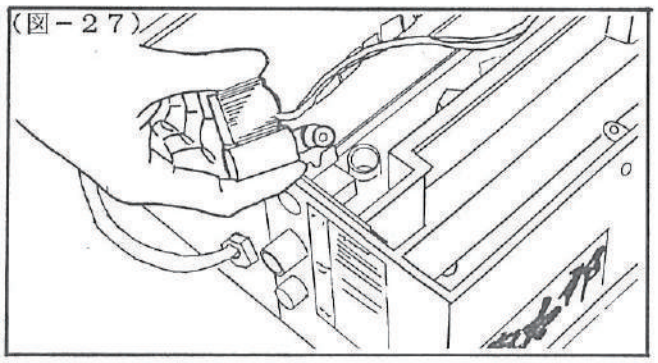
⑦新しいフロートスイッチを取付けたらフロートパネルを、元通り水槽に差込みます。

⑧電磁弁を手で押え、外した継手を取付けます。

注意：●継手のOリングが切れていないことを確認してください。
●継手を締めすぎないように注意してください。あまり強く締めすぎますと、電磁弁の固定樹脂板が破損します。

⑨９頁I～Mの各項目を確認し、点検掃除の後、A～Hの逆の手順で組立て復旧します。

【6】給水用電磁弁交換


(図－27)

①9頁A～Hの手順で水槽を作業のしやすい場所に運びます。
②電磁弁を手で押えながら継手を静かにゆるめて取外します。（図－24）
③電磁弁のリード線（黄線2本）をリレー基板から抜取ります。
④取付ビスをゆるめて電磁弁を取外します。（図－27）
⑤取外した電磁弁の出口エルボを取外し、新しい電磁弁の出口側にねじ込みます。

注意：●出口エルボにはシールテープなどでシール処理を施してください。
●出口エルボの取付方向を間違わないよう注意してください。

⑥電磁弁をフロートパネルの電磁弁固定樹脂板に取付けビスで取付けます。

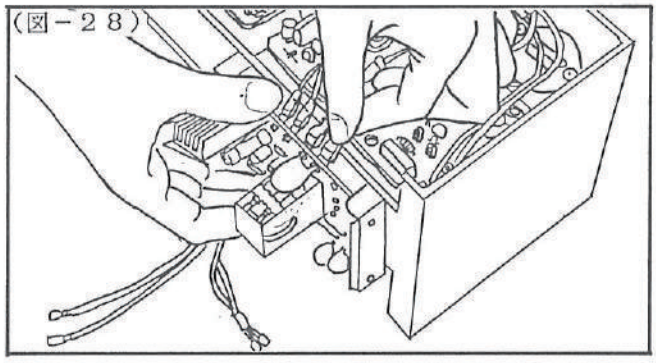
注意：●このときビスのワッシャが、ビス頭と樹脂板の間に入るようにしてください。

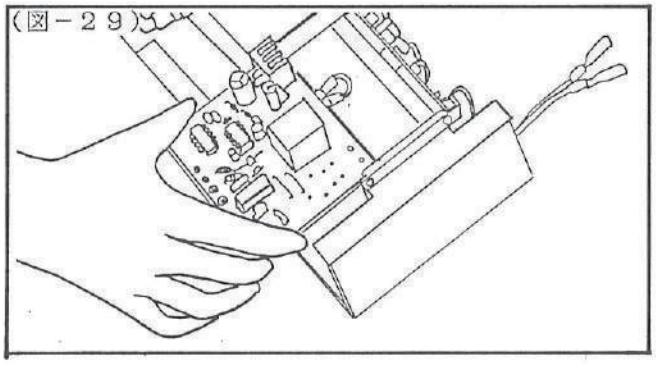
⑦新しい電磁弁を取付けたフロートパネルを、元通り水槽に差込みます。
⑧電磁弁に継手を取付けます。

注意：●継手のOリングが切れていないことを確認してください。
●継手を締めすぎないように注意してください。あまり強く締めすぎますと電磁弁の固定樹脂板が破損します。

⑨9頁I～Mの各項目を確認し、点検掃除の後、A～Hの逆の手順で組立て復旧します。

【7】リレー基板交換


(図－28)


(図－29)

①9頁A～Hの手順で水槽を作業のしやすい場所に運びます。
②リレー基板に接続されているリード線をすべて抜取ります。（図－28）
③リレー基板をガイドに沿って抜取り、新しいリレー基板を差込みます。（図－29）

注意：●リレー基板の向きを間違わないように注意してください。

④基板上の端子に各リード線を差込みます。

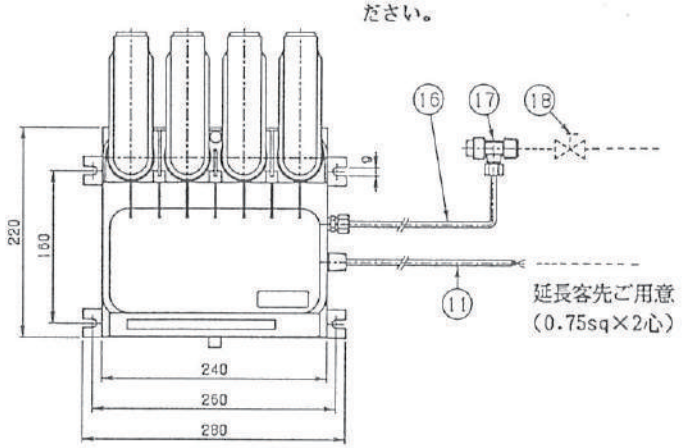
注意：●差込みを間違わないように、よく確認しながら差込んでください。
（9頁表を参照してください。）

⑤9頁I～Mの各項目を確認し、点検掃除の後、A～Hの逆の手順で組立て復旧します。

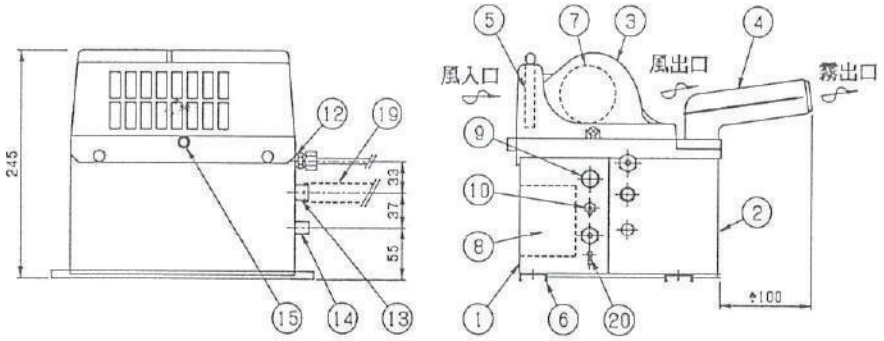
9、本体外形図と主要部品

●外形寸法図

●④の吹出パイプは首振り自在です。取付場所の状態に合わせて調節してください。



番号	部品名称	仕様
①	ｹｰｼﾝｸﾞ	SUS430
②	水槽	ABS樹脂
③	ﾌｧﾝｹｰｽ	ABS樹脂
④	吹出ﾊﾟｲﾌﾟ	PE樹脂
⑤	ﾌｨﾙﾀ	
⑥	取付足	SUS430
⑦	ﾌｧﾝ	ｸﾛｽﾌﾛｰ
⑧	ﾄﾗﾝｽ	
⑨	電源表示灯	
⑩	電源ｽｲｯﾁ	
⑪	電源ｺｰﾄﾞ	2m
⑫	給水接続口	1/4B RJ
⑬	ｵｰﾊﾞﾌﾛｰ管	φ16×φ12
⑭	排水管	φ13×φ9 ｷｬｯﾌﾟ付
⑮	排水管	φ13×φ9
⑯	給水軟銅管	外径φ6.35×1m
⑰	給水ｽﾄﾚｰﾅ	T型 100ﾒｯｼｭ 1/2Bおねじ
⑱	給水ｻｰﾋﾞｽ弁	客先ご用意
⑲	ｵｰﾊﾞﾌﾛｰﾎｰｽ	客先ご用意
⑳	接地ﾋﾞｽ	M4



●主要部品品目

図番号	部品名称	型番	仕様
22	超音波加湿ユニット	NB-59S	AC48V(加湿ユニット基板と振動子)
28	リレー基板		
27	給水用電磁弁	SS12	AC48V
26	給水用フロートスイッチ	FS-0850B	
26	低水位用フロートスイッチ	FS-0850A	
7	フィルタ		
13	ファン		(羽根車、ファンモータ、取付金具)

10、保証期間

(1) 当製品の保証期間は、銘板表示の製造年度の翌年末迄です。取扱説明書および本体貼付ラベル等の要領に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料修理いたします。

(2) 保証期間内においても、選定および取付けの不良による故障、改造による故障、特殊用途でのご使用による故障などにつきましては、有料修理となります。また、取扱説明書に交換周期の明示されている消耗部品の交換につきましては、保証期間内においても有料となる場合があります。

ウエットマスター株式会社

本社営業部	〒161 東京都新宿区中落合3-15-15WM本社ビル	☎(03)3954-1101
●加湿器のアフターサービスのお問合せは、保守管理部直通		☎(03)3954-1110
大阪支店	〒530 大阪市北区東天満2-9-4 千代田ビル東館	☎ (06)351-0571
仙台営業所	〒980 仙台市青葉区本町1-15-8 ,ミヨタビル	☎(022)225-8631
名古屋営業所	〒460 名古屋市中区錦3-7-26 森ビル	☎(052)961-6412
福岡営業所	〒812 福岡市博多区博多駅東2-4-17第6岡部ビル	☎(092)471-0371

- 業務用各種加湿器製造販売(気化式・超音波式・間接蒸気式・電極式・赤外線式ほか)
- エアロQシステム(ダクト系の総合風量管理システム)
- エアロチェッカー(吹出口風量測定器)